

東北地方整備局

復興加速など重点化

解説 国土交通省東北地方整備局の14年度当初予算額は、国土交通省計上分が直轄2,096億1,700万円(前年度比1%増)、補助2,875億7,300万円(同16%増)の合計4,971万9,000万円(同9%増)となった。補助事業のうち社会資本総合整備は2,741億5,600万円(同15%増)で、大幅な増加となった。

予算配分に際しては「東日本大震災からの復興加速」「国民の安全・安心の確保」「経済・地域の活性化」の3分野に重点化。具体的には、①東日本大震災の被災地における道路、河川、港湾等基幹インフラの整備を推進②道路、河川、港湾施設の的確な点検・修繕等の老朽化対策の着実な実施③大規模災害に備えた、ダムや遊水地、砂防堰堤等の予防的な災害対策や緊急輸送道路の強化など④ミッシングリンクの整備や通学路の安全確保等の地域の安全・活性化一などを推進する。

直轄事業の区分別予算額は、道路事業に1,231億1,600万円、治水事業に696億3,900万円、港湾事業に59億8,900万円、官庁営繕事業に68億6,500万円などがそれぞれ配分された。

一方、復興庁計上分では、直轄1,930億6,400万円(同2%減)、補助1,178億1,800万円(同70%増)の合計3,108億8,200万円(同16%増)を計上した。

主な県内直轄事業では、弘前市三世寺地区の岩木川河川改修に新規着手するため、事業費19億0,500万円を計上し、用地補償を進める。また、国道4号の下比良交差点改良(三戸町)に新規着手することにし、14年度に調査設計を実施する。

一方、八戸市八幡地区の馬淵川河川改修(築堤)、五所川原市の岩木川河川改修(浸透対策)、国道101号五所川原西バイパス、国道45号神明前交差点改良(おいらせ町)については、14年度中の完成・開通をそれぞれ目指す。

東北整備局青森河川国道事務所 青樺山バイパスに着工

解説 道路事業では国道103号奥入瀬(青樺山)バイパスに一部着工するほか、河川関係では新規事業として岩木川の弘前市三世寺地区堤防整備を盛り込み、14年度に用地取得を開始する。

新年度事業費は、国土交通省計上分が河川関係約23億円、道路関係約121億円の合計約144億円。復興庁計上分は道路関係約39億円で、治水安全度の向上や高規格幹線道路ネットワークの形成を図る。

道路事業では、直轄権限代行制度として13年度に新規着手した国道103号青樺山バイパスの一部に着工する。新年度は、トンネル掘削に向けた準備的工事として、青樺山側坑口付近の道路改良に着工する。

国道45号上天間林道路では道路改良工事を全面展開するほか、橋梁工事を推進。天間林道路では用地買収に着手するとともに、道路改良工事にも一部着工する。

三陸沿岸道路(侍浜一階上)では、用地買収の進捗とともに改良工事に着手する。

国道101号五所川原西バイパスにおいては、14年度開通に向けて舗装、橋梁工事を促進するほか、国道101号鯨ヶ沢道路の用地買収、改



台風18号による洪水被害に見舞われた岩木川流域(弘前市内)

良、橋梁工事の進捗を図る。

このほか、交通安全事業として国道4号下比良交差点改良(三戸町)に新規着手するほか、電線共同溝整備として国道104号田面木地区の本体工事に着工する。

河川関係では、昨年9月の台風18号による出水で家屋浸水被害が発生した岩木川の弘前市三世寺地区で堤防整備に新規着手することにし、14年度は用地取得を開始する。

また、同様に台風被害が発生した岩木川の板柳地区で河道掘削を推進するほか、流下能力向上を目指して引堤を行う鶴田左岸地区では保安橋の架け替えに着工する。

馬淵川では、八戸市八幡地区で進めている河道掘削や堤防整備を完了させる予定だ。

●岩木川河川改修

津軽の母なる川・岩木川は、白神山地に源を発し、十三湖水戸口を通して日本海へ注ぐ1級河川で、大正7年12月1日に当時の五所川原町に内務省秋田土木出張所岩木川改良事務所が設置され改修に着手したことが国直轄による治水事業の始まり。以来、永きにわたって改修工事が進められてきた。現在は約80kmを対象に国土交通省が管理しているが、末だに無堤地区があるうえ、著しく蛇行している個所があるなど、築堤工事の促進とともに、河道保留効果の保全が急がれている。

上・下流に比べて著しく流下能力が低く、河川改修上のネックとなっている岩木川中流部は、出水のたびに冠水被害を被っており、冠水の頻度を下げて被害を軽減するための築堤等が重点的に行われている。

特に13年9月16日の台風18号に伴う出水により、無堤個所の弘前市三世寺地区では家屋浸水や農作地の冠水等の被害が発生したため、14

年度の新規事業として同地区の築堤事業に着手する。14年度に用地調査および用地取得を進め、その後、3か年事業で築堤工事を進め、16年度完成を目指す。13年度に実施した平面測量や縦断測量を基に作成した設計によると、新たに整備する堤防は、新鳴瀬橋から下流方向へ延長約1.4kmの規模で建設する。堤防の基本構造は土堤とし、川岸に近接する個所はブロック積み等を用いた構造とする。天端の幅は5.5m。

また、13年9月16日の台風18号では、右岸五所川原地区の堤防で漏水が発生したため、護岸整備を実施する。施工延長は約900mで、施工地は五所川原市鶴ヶ岡地内。

さらに、台風18号では堤防整備済み区間であっても、水位上昇に伴って堤防決壊の危険があったため、板柳地区などで河道掘削および用地取得を進める。

このほか、鶴田左岸地区の引堤に伴う保安橋(橋長370m)の架け替えでは、下部工としてP4橋脚工とP5橋脚工にそれぞれ着工する。保安橋は県管理の橋梁だが、国土交通省が岩木川中流部改修事業の一環として新たに岩木川鶴田左岸地区の引堤工事に着手することから、一体的かつ効率的に架け替えを行うため、県からの負担金により国土交通省が保安橋架け替えを発注する。現在の保安橋は、岩木川を跨いで、北津軽郡鶴田町野木字東松虫一同町菖蒲川字笹森間を結ぶ橋長231m、有効幅員5.5m(全幅7.2m)の橋梁で、上部工は11経間単純合成鉄桁、下部工は重力式橋台とラーメン式橋脚の形式を持つ。供用は59年3月1日で、老朽劣化対策も急がれていた。

なお、岩木川における向こう30年間におよぶ治水メニューを定めた「岩木川河川整備計画」では、基本理念に「いのちの川—安全・安心の川づくり」「美しい川—豊かな環境を活かした川づくり」「こころの川—個性ある地域を創造、豊かな暮らしを創出する川づくり」の三つを掲げ、治水対策では58年8月洪水や77年8月洪水などの戦後最大規模の洪水が発生しても浸水被害を防止できるよう、鶴田左岸や平川右岸など12地区で堤防整備を行うほか、武田や上中畑など



保安橋の完成予想図

13か所で堤防の質的強化を図る。また、中流部約28kmの河道掘削を進めるほか、洪水調節や正常流量の確保、水道・工業用水の供給などを目的とする津軽ダムを建設。さらに、市町村らと連携しながら内水対策を実施、洪水被害を防止・軽減する備えとして岩木川の下流および中流、平川の3地区に水防拠点の整備を行うことにした。

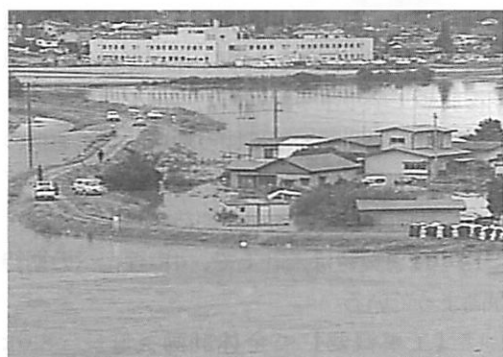
河川整備計画は、岩木川水系河川整備の目標を明らかにし、個別事業を含む具体的な河川整備の内容を明らかにする、川づくりの根幹となる長期計画で、岩木川水系については国土交通省東北地方整備局が直轄管理区間、県河川砂防課が県管理区間をそれぞれ取りまとめる。

□【工事概要】＜14年度事業内容＞弘前市三世寺地区築堤の用地調査・取得、五所川原市鶴ヶ岡地区の護岸整備、板柳地区等の河道掘削および用地取得、左岸鶴田地区の保安橋下部工築造【計上予算額】19億0,500万円【施工地】五所川原市、鶴田町、板柳町、弘前市地内【事業期間】14年度

●馬淵川河川改修

1級河川・馬淵川の国土交通省直轄管理延長は約10kmで、宅地化が進み背後地に八戸駅を控えている八戸市内の無堤部解消が急がれている。14年度は、背後地に人家連担地区を抱える八戸市八幡地区で築堤および河道掘削を進め、同地区での事業完成を目指す。14年度事業費は4億0,600万円。

馬淵川水系では、県との共同作業により策定を進めた河川整備計画(国管理区間)に基づき、右岸および左岸の築堤4.4kmや堤防の質的整備



馬淵川の氾濫により家屋浸水被害を受ける八戸市八幡地区

6km、河道掘削3.4kmを実施し、治水安全度の向上を図ることになっている。基本高水ピーク流量は、八戸市長苗代の大橋地点で毎秒2,500m³と設定した。

また、07年3月28日には県や八戸市、三戸町、南部町とで構成する「馬淵川の総合的な治水対策協議会」が馬淵川の緊急治水対策を取りまとめており、必要に応じて改定を行うなど治水安全度向上に努めている。

□【工事概要】八戸市八幡地区の築堤および河道掘削(14年度完成)【計上予算額】4億0,600万円【施工地】八戸市八幡地内【事業期間】14年度

●岩木川河川維持修繕

直轄河川・岩木川の維持管理は、十三湖水戸口から上岩木橋までの80.6kmを対象に五所川原出張所と藤崎出張所の2か所の出先機関が行っている。

14年度も堤防の除草や河川巡視、護岸の維持修繕を実施するほか、工作物の定期点検を実施し、点検に基づいた修理や補修を計画的かつ的確に行う。

□【工事概要】①堤防除草②河川巡視③護岸維持修繕④工作物点検及び修理・補修一など【施工地】弘前市下湯口(上岩木橋)ー五所川原市十三(河口)【事業期間】14年度

●馬淵川河川維持修繕

馬淵川における直轄管理区間は河口から櫛引橋直下流の延長10.0kmで、八戸出張所が維持管理にあっている。

14年度も堤防除草や河川巡視、護岸維持修繕や、河川工作物の定期点検に基づく修理・補修も計画的に実施する。

□【工事概要】①堤防除草②河川巡視③護岸維持修繕④河川工作物維持・補修一など【施工地】八戸市内【事業期間】14年度

●岩木川総合水系環境整備

岩木川中流部は、流下土砂の堆積等により魚類の産卵・生息環境となる瀬や淵が減少しているほか、弘前市樋の口の上水道取水堰魚道付近に設置している護床ブロックによって遡上できない魚類がいることなどから、魚類の生息環境

改善対策が求められていた。このため、13年8月に「岩木川魚がすみやすい川づくり検討委員会」(委員長・東信行弘前大学准教授)を立ち上げ、岩木川中流部の魚類生息環境改善策の検討を進めている。

過去2回の会議では、弘前市上水道取水堰直下において中州が形成され、流路の連続性が断たれている上、既設魚道下流に護床ブロックが設置されていることなどにより、魚類が魚道を利用して遡上できないことへの対応策として、上水道取水堰直下において①マウンド(中州)の掘削②岩木茜橋下流右岸部への平ブロック配置③左岸側の掘削④魚道前面の既設護床ブロックの撤去および底板の落差解消⑤左岸側護床ブロック再配列一などにより、魚類を左岸側の魚道へ誘導し、ラバーダムの上流へ遡上しやすいようにする方針を申し合わせた。

また、アユの産卵床となる瀬や淵の再生・保全案として、河床部に自然石などを配置して平面的な流れを局部的に集中させ、河床洗掘をさせることによって、淵の形成を図ることや、堆積した砂州の掘削を行って砂礫砂州を再生させることによって、瀬を形成するなどの対策も確認した。

14年度では、より具体的な環境改善策について議論を重ねる予定で、16年度までの4か年事業で必要な措置を講じる。

□【工事概要】弘前市上水道取水堰直下において①マウンド(中州)の掘削②岩木茜橋下流右岸部への平ブロック配置③左岸側の掘削④魚道前面の既設護床ブロックの撤去および底板の落差解消⑤左岸側護床ブロック再配列一など



岩木川水環境整備事業として魚道改修が行われる弘前市樋の口地区

【計上予算額】1,200万円【施工地】弘前市樋の口地内【事業期間】13—16年度

◎馬淵川総合水環境整備

馬淵川の河川空間における適正な利用を図る一環として、05—06年度事業で「八戸地区水辺の楽校(がっこう)」整備を行ったほか、06年度からは八戸市の馬淵川大堰付近を対象に「魚がすみやすい川づくり事業」を進めている。

このうち、「魚がすみやすい川づくり事業」は当初、14年度での事業完了を予定していたが、東日本大震災による左岸魚道復旧や、検討委員会の意見(モニタリングの1年延長、右岸魚道における工期を1年延長し2年とする)を踏まえ、17年度まで3年延長することにした。

14年度事業費は1,300万円で、魚道改良設計を実施する。

□【工事概要】<魚がすみやすい川づくり>馬淵川大堰付近の魚道改良設計【計上予算額】1,300万円【総事業費】7億6,000万円【施工地】八戸市の馬淵川大堰付近(魚がすみやすい川づくり)【事業期間】06—17年度

◎三陸沿岸道路(八戸南環状道路)建設

八戸南環状道路は、東北縦貫自動車道八戸線と接続する八戸JCT(八戸市根城地内)を起点に、国道45号八戸工業大学付近の八戸南IC(八戸市妙)に至る延長8.6km、幅員22.0m(暫定12.0m)の路線で、91年度から事業に着手。93年度から用地買収や埋蔵文化財調査が進められ、99年度に着工し、05年3月5日に暫定2車線で八戸是川IC—八戸南IC間3.8kmの部分供用を図った。その後、東日本大震災発生に伴う「復興道路」の一部に位置付けられ、未供用部分の八戸JCT—八戸是川IC間(延長4.8km)が14年3月29日に2車線で全線供用。震災からの早期復興やエネルギー輸送の効率化を支援するとともに、所要時間短縮に伴う地域間交流連携の促進、3次救急医療施設(八戸市民病院)へのアクセス性向上などの効果が期待されている。

14年度事業費は未計上で、4車線化への期待が高まっている。

□【工事概要】<全体計画>延長=8.6km、幅員=22.0m(暫定12.0m)、道路規格=1種

3級、設計速度＝80km/h、車線数＝4車線(暫定2車線)【計上予算額】未計上【施工地】八戸市妙(八戸南IC)－八戸市田面木(八戸JCT)地内【事業期間】91年度－13年度

●三陸沿岸道路(八戸南道路)建設

八戸南道路は、八戸南環状道路終点の八戸南IC(八戸市妙)を起点に、階上IC(階上町)に至る延長8.7km、幅員22.0m(暫定12.0m)の路線で、07年6月16日には八戸南IC－階上町蒼前東2丁目区間の延長3.4kmが暫定供用したほか、13年3月9日に全線供用を迎えた。

東日本大震災で被災した三陸沿岸地域の日も早い復興を支援するため、国土交通省が「復興道路」の一部区間に位置付けて建設を進めたもので、復興道路としては初の開通となった。開通に伴って、復興支援や三陸地区の安定的エネルギー確保に加え、高次救急医療サービスの向上、地域活性化などの整備効果が見込まれている。

□【工事概要】<全体計画>延長8.7km、幅員22.0m(暫定12.0m)、道路規格＝1種3級、設計速度＝80km/h、車線数＝4車線(暫定2車線)

【計上予算額】未計上【事業期間】95年度－12年度



復興加速化の期待を担い八戸南道路が開通(13年3月9日)

●三陸沿岸道路(八戸・久慈自動車道)侍浜－階上間建設

東日本大震災の「復興道路」に位置付ける三陸沿岸道路のうち、階上町－岩手県久慈市間(全長23km)の本県側3kmの建設は青森河川国道事務所が所管して建設を進める。

14年度は用地買収および改良工事、橋梁工事(道仏川橋)の推進を図る計画で、事業費は復興

庁計上分として38億7,700万円が配分された。

□【工事概要】<全体計画>延長＝23km(本県側3km)、道路規格＝1種3級、設計速度＝80km/h<14年度事業内容>階上IC(階上町道仏)－県境間(延長3km)の用地買収および改良工事、橋梁工事(道仏川橋)の推進【計上予算額】38億7,700万円【事業期間】95年度－

●一般国道101号五所川原西バイパス建設

07年度に全線暫定供用した浪岡五所川原道路と一体になって五所川原市中心部を迂回する環状機能を持ち、市街地の交通混雑の緩和や沿道環境の改善を図るため、04年度に新規着手した。全体延長は3.8km、車線数は2車線で、五所川原北ICから岩木川を跨いで、つがる市の国道101号にタッチする。

14年度事業費は1億円で、①道路・構造物設計②支障物移転補償③長橋地区舗装(0.5km)、橋梁工事(つがる跨道橋床版工)－などを展開して14年度中の完成を目指す。

□【工事概要】<全体計画>延長3.8km、車線＝2車線<14年度事業内容>①道路・構造物設計②支障物移転補償③長橋地区舗装(0.5km)、橋梁工事(つがる跨道橋床版工)－など

【計上予算額】1億円【設計】大日本コンサルタント(小曲跨線橋予備設計)、東日設計コンサルタント(小曲地区道路詳細設計)、オリエンタルコンサルタンツ(岩木川橋梁予備設計)、東京建設コンサルタント(道路設計)【施工地】五所川原市－つがる市柏稲盛地内【事業期間】04年度－14年度

●一般国道101号鱒ヶ沢道路建設

国道101号は、県都・青森市と西北五地方を結び秋田県に至る主要幹線道路だが、線形隘路区間の交通事故が多発し、三次救急医療施設へのアクセス性も悪く、特に五所川原市－鱒ヶ沢町区間は唯一代替路線がない上、海溝型地震が発生した場合に国道101号やJR五能線が分断されることから、西海岸地域の孤立化を防ぐ緊急輸送道路の確保が急がれていた。

このため、つがる市木造越水地区－鱒ヶ沢町舞戸町区間の3.7kmを直轄権限代行制度により国土交通省がバイパスを建設することにし、07



工事進捗が期待される鯉ヶ沢道路の起工式(12年9月10日)年度に新規着手した。総事業費は約70億円。

14年度予算には15億5,200万円が配分され、①埋蔵文化財調査や道路・構造物設計の推進②北浮田地区や南浮田地区、舞戸地区の用地買収(2ha)③北浮田-南浮田地区道路改良工事(3.2km)、橋梁工事(南浮田跨道橋の上・下部工)、鳴沢跨線橋の上・下部工)、ほか3橋一などの進捗を図る。主な工事として、鯉ヶ沢地区道路改良、舞戸地区道路改良、北浮田地区跨道橋などを発注する計画で、15年度の完成を目指す。

【工事概要】<全体計画>つがる市木造越水地区-鯉ヶ沢町舞戸町区間の3.7km、車線=2車線<14年度事業内容>①埋蔵文化財調査や道路・構造物設計の推進②北浮田地区や南浮田地区、舞戸地区の用地買収(2ha)③北浮田-南浮田地区道路改良工事(3.2km)、橋梁工事(南浮田跨道橋の上・下部工)、鳴沢跨線橋の上・下部工)、ほか3橋一など【設計】建設企画コンサルタント(道路概略設計および道路予備設計)、国際航業(環境調査)【計上予算額】15億5,200万円【総事業費】約70億円【施工地】つがる市木造越水地区-鯉ヶ沢町舞戸町地内【事業期間】07年度-15年度

●一般国道101号浪岡五所川原道路建設

国道101号浪岡五所川原道路(延長15.7km)の一部を対象に付加車線(追い越し車線)を設置する計画で、13年度に調査検討に着手した。

津軽自動車道の一部を構成する浪岡五所川原道路は現在、五所川原東IC付近に追い越し車線が設置されているが、それ以外の大半の区間は片側1車線となっており、吹雪等によって事故が発生し、通行止めとなった場合、救急患者

の搬送に大きな影響を及ぼすことが危惧されていた。このため、13年2月には平山誠敏五所川原市長が国土交通省東北地方整備局青森河川国道事務所の盛谷明弘所長に対して、浪岡五所川原道路に付加車線を設置するよう要望を行い、浪岡五所川原道路への付加車線設置の可能性について調査検討に着手することになったほか、吹雪からの視界を確保するため防雪柵の設置についても調査することになった。

13年度着工した青森市浪岡字徳才子一五所川原市前田野目間(1.5km)の拡幅改良を推進するため、14年度予算には12億8,600万円を配分している。

【工事概要】<全体計画>路線延長15.7kmの一部区間に付加車線建設<14年度事業内容>青森市浪岡字徳才子一五所川原市前田野目間(1.5km)の拡幅改良【計上予算額】12億8,600万円【施工地】五所川原市地内【事業期間】13年度-

●一般国道7号浪岡バイパス建設

県都・青森市と弘前、五所川原地方の連絡強化のほかに、現道の混雑解消、冬期間交通障害の解消などを目的に、1974(昭和49)年度から事業着手している。82年度から用地買収、85年度に着工し、94年度までに3.8kmが供用したほか、04年度は迂回ルート及び国道101号-国道7号タッチ部分の両工区合わせて4.7kmが暫定2車線で部分供用した。さらに、05年度から残る浪岡町下十川地区(延長2km)の用地買収に着手し、10年度部分暫定供用を図った。大釈迦-鶴ヶ坂間(延長2.1km)については、10年度以降、新規事業着手が見送られ、全線開通が先送りされている。

【工事概要】<全体計画>延長=12.58km、幅員28.0m(暫定14.5m)、車線数=4車線(暫定2車線)、構造規格=3種1級<14年度事業内容>事業凍結【計上予算額】未計上【施工地】青森市浪岡下十川(起点)-青森市鶴ヶ坂(終点)地内【事業期間】未定

●一般国道7号青森環状道路建設

青森環状道路は、青森市内の交通混雑の解消を目的に、青森市新城を起点とし、青森市平新

田に至る延長16.6kmのバイパスで、74年度に事業化し、02年度までに全線2車線で全線供用している。99年度からは東北縦貫自動車道八戸線青森中央ICアクセス関連事業として県道・荒川青森停車場線から終点の国道4号交差までの延長7.9kmについて、日本道路公団と調整を図りながら事業を進め、03年度に東北縦貫自動車道八戸線が青森自動車道として開通している。さらに青森市筒井一同市後瀧間(延長4.4km)が09年度に4車線化供用しており、今後は青森市新城一同市安田間の4車線化が待たれている。

□【工事概要】<4車線拡幅計画>延長=7.9km、幅員=28.0m、構造規格=第3種1級<14年度事業内容>未実施【計上予算額】未計上【施工地】青森市新城(起点)ー青森市平新田(終点)地内【事業期間】74年度ー

●一般国道45号上北道路建設

「上北自動車道」は、青森市と八戸市を連絡する道路として、下田町から六戸町、十和田市、東北町を経て天間林村に至る延長約26kmの自動車専用道路で、現在供用中の、みちのく有料道路、第二みちのく有料道路に接続するなど、県内の幹線道路網を形成する。路線概要は、下田六戸線が8,330m、上北天間林線が1万7,680mの合計2万6,010mで、第二みちのく有料道路の三沢・十和田・下田インターチェンジ(IC)から天間林側に向けて、六戸(1)、六戸(2)、上北(1)、上北(2)、天間林(1)、天間林(2)の六つのICを設置。みちのく有料道路の入口である県道後平青森線と結ぶ。設計速度は時速100km、幅員は23.5mの4車線を予定する。

三沢一天間林間の都市計画決定に伴い、国土交通省が六戸町犬落瀬ー東北町大浦間の延長7.7kmを上北道路としてバイパス整備することにし、05年度の新規事業着手が決定。県都・青森市と、北奥羽の拠点都市・八戸市とを連結する国道45号三沢一天間林間バイパスの第1弾として07年11月18日に起工式を執り行い着工、13年3月24日に待望の開通を迎えた。

□【工事概要】<全体計画>延長=7.7km【計上予算額】未計上【設計】日本構造橋梁

研究所(大浦橋詳細設計)、千代エンジニアリング(上北道路こ道橋詳細設計)、ニュージェック(四木地区跨線橋詳細設計)、復建技術コンサルタント(上北道路設計、内山地区跨線橋詳細設計、上北地区橋梁設計)【施工地】上北郡六戸町犬落瀬(起点)ー上北郡東北町大浦(終点)地内【事業期間】05年度ー12年度

●一般国道45号上北天間林道路建設

国土交通省の社会資本整備審議会道路部会が09年3月に新規事業採択を了承、同月中に国土交通大臣が整備計画を正式決定し、事業着手が決まった。

計画では、起点が上北郡東北町大浦地内、終点は上北郡七戸町附田向の全長7.8kmで、一般国道45号バイパスとして13年3月に供用した上北道路(延長7.7km)に接続する。幅員は23.5m(4車線)で、道路等級区分は1級2種、設計速度は時速100km。区間内では一般国道45号および県道折茂上北町停車場線、県道七戸上北町停車場線、一般国道394号との連結を予定する。当面は229億円の事業費により、暫定2車線で整備を進める。

本格的な事業着手は09年度からで、14年度は①埋蔵文化財調査、道路・構造物設計②用地買収推進(大浦、附田向地区の2ha)③道路改良工事(大浦ー附田向地区3.2km)、橋梁工事(砂土路川橋の上・下部工、七戸川橋の上・下部工、ほか3橋)ーなどを展開する。14年度予算には61億2,000万円が盛り込まれた。

□【工事概要】<全体計画>延長=7.8km、幅員23.5m(4車線)、道路等級区分=1級2種、設計速度=時速100km<14年度事業内容>①埋蔵文化財調査、道路・構造物設計②用地買収推進(大浦、附田向地区の2ha)③道路改良工事(大浦ー附田向地区3.2km)、橋梁工事(砂土路川橋の上・下部工、七戸川橋の上・下部工、ほか3橋)ーなど推進【計上予算額】61億2,000万円【設計】東開技術(山ノ外地区用地調査)、オオバ(中久根地区用地調査)、東邦技術(小下内地区用地調査)【総事業費】229億円【施工地】上北郡東北町大浦(起点)ー上北郡七戸町附田向地内(終点)【事業期間】09年度ー16年

度以降

●一般国道45号天間林道路建設

13年度予算に調査設計費が計上されたことに伴って、高規格道路「上北自動車道」の全線で建設が進められることになり、八戸—青森間が百石道路、第2みちのく有料道路、上北横断道路、みちのく有料道路の高規格道路で結ばれ、ミッシングリンクの解消が図られる。

天間林道路は、東北縦貫自動車道八戸線の一部を構成する七戸町字附田向から七戸町字後平に至る延長8.3kmの自動車専用道路で、13年3月開通した上北道路(同7.7km)や上北天間林道路(同7.8km)とともに、上北横断道路を構成する3区間のうちの一つ。

全体計画によると、起点は(仮称)天間林(1)IC(七戸町字附田向)、終点は(仮称)天間林(2)IC(同町字後平)の延長8.3km(2車線)で、設計速度は時速80km/h、全体事業費約260億円のうち、総費用は約224億円。

14年度は事業費8億5,800万円により①道路・構造物設計②用地買収(附田向、後平地区18ha)③橋梁工事(坪川橋の下部工)、道路改良工事(附田向地区4km)一などの推進を図る計画で、いよいよ着工する。

□【工事概要】<全体計画>延長8.3km、設計速度=時速80km<14年度事業内容>①道路・構造物設計②用地買収(附田向、後平地区18ha)③橋梁工事(坪川橋の下部工)、道路改良工事(附田向地区4km)一など推進【計上予算額】8億5,800万円【設計】12年度から順次委託【総事業費】260億円【施工地】七戸町字附田向(起点)一同町字後平地内(終点)【事



天間林道路着工に向けて開かれた設計・用地説明会(13年7月12日)

業期間】12年度—

●国道103号奥入瀬(青楓山)バイパス建設



青楓山バイパスのルート計画図

これまで、県が事業化を目指していた国道103号奥入瀬(青楓山)バイパスが、13年度に国土交通省の直轄権限代行事業として新規採択され、事業化が決まった。13年度にパシフィックコンサルタンツにトンネル詳細設計を委託した。14年度は事業費2億5,000万円が配分され、いよいよトンネル坑口付近0.8kmの道路改良工事に着工するほか、地質調査や環境調査、トンネル設備設計、支障物件移転補償なども予定している。

青楓山バイパスは、十和田市青楓山—同市子ノ口の幅員狭小、線形不良および急勾配の隘路区間や通行規制区間を解消し、安全で円滑な交通の確保を図るとともに、奥入瀬溪流沿いの自然環境保全を目的に建設する。

バイパス延長は5.2kmで、バイパスの大半をトンネルが占めるなど、高い技術力を要することや多額の事業費を伴うことなどから、県が国土交通省に対して直轄権限代行制度により整備するよう要望を続けてきた。太田昭宏国土交通大臣が現地視察を行うなどして13年度に直轄事業として新規採択され、国土交通省が建設を進めることになった。見込まれている総事業費は230億円。

□【工事概要】<全体計画>バイパス延長5.2km<14年度事業内容>①トンネル坑口付近0.8kmの道路改良工事②地質調査や環境調査、トンネル設備設計③支障物件の移転補償【計上予算額】2億5,000万円【総事業費】約230億円【設計】パシフィックコンサルタンツ(青楓山トンネル詳細設計)【施工地】十和田市青

樺山一十和田市子ノ口地内【事業期間】13年度一

●国道維持修繕

維持修繕事業は、管内の国道4号、7号、45号、101号の浪岡五所川原道路、104号の5路線を対象に実施しており、道路交通の適切な保全を目的に、道路機能保持のための作業を行うとともに、道路の損傷した構造を保持回復するための工事を行っている。経常的な維持管理、舗装、橋梁、その他構造物の破損個所の補強等として、パッチング・オーバーレイ、橋梁・構造物等の補修、ガードレール等交通安全施設の更新、法面の危険個所の防災工事、路面清掃、街路樹の保全等一などを実施する。

□【工事概要】路線補修(車道および歩道の舗装、補修)、構造物(橋梁の補修補強、トンネル・擁壁などの補修)、交通安全施設(道路照明灯、道路標識、ガードレールおよび視線誘導標などの補修)、路肩法面等(路線・排水側溝の清掃、路肩・法面の除草および街路樹・緑地帯の管理など)【計上予算額】不明【事業期間】14年度

●交通安全施設等整備

管内の交通事故の防止と交通の円滑化・快適性の向上を図るため、事故削減対策、交差点改良、道路標識、道路情報提供装置等の整備を継続的に整備しており、14年度は現在事業中の国道104号岩ノ下交差点改良(南部町)の完成を図るほか、新たに国道4号下比良交差点改良(三戸町)に新規着手する。

□【工事概要】国道4号梅内登坂車線整備(三戸町)、国道4号下比良交差点改良(三戸町)、国道4号洞内地区付加車線整備(十和田市)、国道4号馬門歩道整備(野辺地町)、国道7号古懸交差点改良(平川市)、国道7号長峰歩道整備(大舘町)、国道7号安田地区交差点改良(青森市)、国道45号神明前交差点改良(おいらせ町)、国道104号苫米地交差点改良(南部町)、国道104号八木田歩道整備(南部町)、国道104号岩ノ下交差点改良(南部町)【計上予算額】国道4号梅内登坂車線整備1億4,100万円、国道4号下比良交差点改良3,000万円、国道4号洞内地区付加車線整備2億8,200万円、国道4号馬門歩道整

備2億0,100万円、国道7号古懸交差点改良5,100万円、国道7号長峰歩道整備8,400万円、国道7号安田地区交差点改良3億円、国道45号神明前交差点改良3,600万円、国道104号苫米地交差点改良5,100万円、国道104号八木田歩道整備2,100万円、国道104号岩ノ下交差点改良9,300万円【施工地】三戸郡南部町地内(国道104号岩ノ下交差点改良)、ほか【事業期間】14年度

●電線共同溝整備

都市景観や防災性の向上、安全で快適な歩行空間の確保を図るため、新たな「無電柱化推進計画」(09-13年度)に基づき、電線類地中化を推進しており、09年度に着工した一般国道7号青森西バイパスの青森市石江高間地区において延長900m(片側450m)が完成。13年度は同市新成地区(延長900m)での整備が完成した。

14年度は八戸市田面木地区の国道104号での整備を継続する予定で、支障物補償や本体工を行うため、事業費2億7,000万円を措置した。

□【工事概要】八戸市田面木地区の国道104号の支障物移転補償や本体工事【計上予算額】2億7,000万円【施工地】八戸市田面木地内【事業期間】13年度一

東北整備局高瀬川河川事務所 塩水対策工を実施

解説 14年度の配分予算額は、国土交通省計上分約2億円で、湖岸堤の整備が13年度で完了したことなどに伴い前年度比約7億円減が措置された。

14年度は、地域の産業や観光の基盤である小川原湖の水質改善を目的に08年度から進めている小川原湖水環境整備事業として、水質悪化の一因となっている塩水遡上を抑えるため小川原湖の水質改善対策(塩水遡上抑制対策等)を継続することにし、塩水遡上に起因する水質悪化を防止するための塩水対策工を実施する。

また、治水安全度の向上を図るための調査計画等も進めるほか、河川の適正な利用や水質の保全を図るため、環境に関する基礎データ収集のための各種調査を行う。

●高瀬川改修等

改修事業では、およそ100年に一度の割合で発生する大洪水に対応できるよう、①湖岸堤の整備②放水路の拡幅③内水対策④河岸・湖岸の管理一などの各事業を展開する。

特に、高瀬川放水路を延長3.2kmにわたって河道幅180mへと拡幅するほか、洪水氾濫の防止を図るため、六ヶ所村倉内、同村中志、東北町田ノ沢、同町船ヶ沢の4地区を対象に湖岸堤の新設・嵩上げなどの整備を順次進める。このうち13年度で築堤整備が完了。放水路拡幅への着工が待たれている。

高瀬川直轄河川改修事業の目玉事業となる放水路の拡幅整備では、早ければ14年度にも必要な調査計画等に着手する。調査業務は21年度頃まで行われる見通しで、22年度頃の着工を見込んでいる。調査計画では、測量業務や設計業務、環境調査などを進める予定だが、ラムサール条約にも登録されるなど貴重な湿地となっている仏沼が近接することから、動植物の環境調査には十分な配慮を行う見通し。

放水路拡幅整備は、流下能力向上によって小川原湖の水位低下を図り、洪水被害軽減を目指すもので、湖口マウンドへの影響を考慮して越流方式とする。延長は約3.2kmで、河道掘削のほかに越流堤や導流堤の整備を行う予定。放水路拡幅は当初、約70億円の事業費を見込んでいたが、放水路拡幅工事で発生する掘削土を環境整備事業に活用したり、放水路拡幅部の法覆工や越流部の護床工見直し、導流堤や付帯施設の見直しを行うなどして47億円のコスト圧縮を図る考えで、現時点での放水路拡幅整備事業費は約27億円と想定している。

このほかに定常業務として、湖岸堤、排水機場および水門の点検や補修、除草などの維持・管理を適切に行うほか、水位および雨量、水質などの水理水文観測や、水防、洪水予報などの防災情報の提供に努める。

なお、06年3月に正式決定した決定した河川整備計画では、基本的方向に「安全と安心の確保」、「微汽水環境を後世に残し、伝える」、「地域とともに歩む河川・湖沼の維持保全」の3テー

マを設定し、直轄管理区間ではおよそ100年に一度の割合で発生する大洪水に対応できるよう、①湖岸堤の整備②放水路の拡幅③内水対策④河岸・湖岸の管理一などの各事業を展開することとしている。

14年度に発注を見込んでいる工事は、高瀬川維持、高瀬川上野地区堤防耐震、高瀬川塩水対策、高瀬川管理施設補修など。

□【工事概要】<14年度事業>①直轄河川維持修繕＝堤防除草及び河川管理施設等の維持管理、水理水文観測②河川改修【計上予算額】一般改修事業費6,400万円【総事業費】84億円【設計】アイ・エヌ・エー(放水路拡幅概略設計)【施工地】上北郡東北町・六ヶ所村地内【事業期間】05～35年度

●高瀬川水系直轄総合水環境整備

07年度に新規着工した高瀬川水系直轄総合水環境整備事業では、ラムサール条約登録された仏沼湿原が隣接する小川原湖仏沼地区の利用者増加が見込まれることから、安全に自然観察学習や湖周辺の散策ができるようフットパス(散策路)整備などを進めるなど、水環境の保全・改善を図った。その後、12年度に開催した第2回小川原湖水環境対策協議会(会長・寺谷正路高瀬川河川事務所長)において、水質悪化が問題化している小川原湖の水環境保全対策として、流域内の汚水処理対策を推進することや、太平洋からの塩水遡上を妨げるための施設を設置することなどが決定した。

水環境保全対策は、小川原湖固有の汽水環境と豊かな生態系を保全し、良好な水辺空間を維持・創造するため、流域一帯で対策を講じるの



水質悪化防止に向け小川原湖の塩水対策を実施

が目的で、計画期間は約10年間。水環境を保全するための施策として、下水道や農業集落排水、合併浄化槽、畜産排水対策、工場排水対策などの汚水処理対策を推進するほか、地域住民に対する意識啓発活動を促進する。

14年度は水質悪化の一因となっている塩水遡上を抑えるため、小川原湖の水質改善対策(塩水遡上抑制対策等)を継続することにし、塩水遡上に起因する水質悪化を防止するための塩水対策工を実施する。

□【工事概要】＜14年度事業＞塩水対策工を実施【計上予算額】6,400万円【総事業費】84億円【施工地】三沢市、上北郡東北町、六ヶ所村地内【事業期間】07年度～

東北整備局津軽ダム工事事務所 コンクリート打設完了へ

解説 14年度事業費は前年度比1割減の約130億円だが、ダム本体コンクリート打設が完了し、付替県道も全線開通を予定するなど、津軽ダム完成に大きく前進する1年となる。

ダム本体工事では、10年5月に着手した本体コンクリート打設が秋頃に打設完了を迎える。13年度までの本体コンクリート打設量は約70万6,000 m^3 で、全体量75万9,000 m^3 に対する進捗は約93%。14年度は約5万3,000 m^3 の本体コンクリート打設を行い、秋頃までに打設工事を完了させる。このほかに各種ダム管理設備工事も本格化させる。

また、津軽ダム完成に伴い水没する主要地方道岩崎西目屋弘前線の付替道路工事等を継続実施し、秋頃に全線開通させるほか、ダム本体関連の調査や設計および猛禽類等の環境調査を継続実施する。

●津軽ダム建設

岩木川流域にとって待望の津軽ダム建設の本体工事が15年2月の試験湛水に向けて進められており、14年度はダム本体コンクリート打設が完了し、付替県道も全線開通を予定するなど、津軽ダム完成に大きく前進する1年となる。

ダム本体工事では、10年5月に着手した本体コンクリート打設が秋頃に打設完了を迎える。13年度までの本体コンクリート打設量は約70万6,000 m^3 で、全体量75万9,000 m^3 に対する進捗は約93%。14年度は更に約5万3,000 m^3 の本体コンクリート打設を行い、秋頃までに打設工事を完了させる。このほかに各種ダム管理設備工事も本格化させる。また、津軽ダム完成に伴い水没する主要地方道岩崎西目屋弘前線の付替道路工事等を継続実施し、秋頃に全線開通させるほか、ダム本体関連の調査や設計および猛禽類等の環境調査を継続実施する。

津軽ダム本体建設工事では、08年11月17日に間組・西松建設特定JVの施工で第1期本体建設工事に着工。その後、10年10月28日に『津軽ダムの日』の一環として定礎式が執り行われ、関係者約300人が出席して定礎を祝った。12年度で第1期ダム本体建設工事が完了したため、12年度末に第2期ダム本体建設工事について第1期工事を担当した間組・西松建設特定建設工事JVと105億3,000万円(税別)で随意契約した。工期は2016年3月18日まで。

14年度に発注予定の工事は、津軽ダム貯水池地山対策、津軽ダム砂子瀬地区除雪車庫新築、津軽ダム県道付替法面对策、津軽ダム水質保全施設、津軽ダム2号水質保全施設、津軽ダム大川地区整備、津軽ダム大沢地区整備、津軽ダム湯ノ沢地区整備、津軽ダム電話交換設備設置、津軽ダム砂子瀬地区整備、津軽ダム川原平地区整備、津軽ダム県道付替雪崩防止柵設置、津軽ダム黒滝地区整備、津軽ダム通信ネットワーク設備設置、津軽ダム反射板設備設置、津



今秋に本体コンクリート打設が完了する津軽ダム(13年11月撮影)

軽ダム本体ケーブル・照明設備設置、津軽ダム木戸ケ沢貯水池保全施設ケーブル・照明設備設置、津軽ダム2号水質保全施設ゲート設備新設、津軽ダム2号水質保全施設導水管新設、津軽ダムCCTV設備設置、津軽ダム地すべり観測設備設置など。

津軽ダムは、中津軽郡西目屋村の西目屋ダム直下に計画する多目的ダムで、完成すれば県内最大級のダムとなる。流水の正常な機能の維持、洪水調節、かんがい、水道・工業用水の供給、発電などが目的。

03年度に行われた基本計画の変更では、ダム本体の規模や総事業費に変更はないものの、完成予定は16年度(平成28年度)と大きく後退。さらに07年8月21日には津軽ダム基本計画の第2回変更が正式決定した。利水計画の見直しなどに伴い、ダム総貯水容量は従来計画の1億4,230 m^3 から1億4,090 m^3 へと140万 m^3 減少したほか、堤高も現行計画の97.5mから97.2mへと30cm低下するなど、僅かだがダム規模を縮小して建設する。

利水計画の見直しは、05年度に策定した岩木川水系河川整備基本方針との整合を図るため、洪水調節量を変更したことや、かんがい面積の変更、上水道・工業用水道の減量、津軽広域水道企業団の撤退、および発電事業者が県公営企業局から東北電力に変わったこと等によるもの。

また洪水調節量の見直しも行われ、ダム地点計画高水流量は毎秒3,100 m^3 と変わらないものの、洪水調節量は現計画の毎秒2,890 m^3 から同2,940 m^3 へと50 m^3 増加した。総事業費は従来計画では約1,450億円としていたが、今回の変更ではダム規模の縮小や原石山の変更などのコスト縮減に努めながらも、貯水池地すべり対策や環境・文化財調査による追加対策、工期延伸などの要因から約1,620億円へと170億円アップした。費用負担割合は、河川87.2%、かんがい10.9%、水道(弘前市)0.8%、工業用水道0.5%、発電0.6%など。

□【工事概要】<ダム本体計画>①形式=重力式コンクリートダム②堤高=97.2m③堤頂

長=342m④堤堆積=70万4,000 m^3 ⑤総貯水容量=1億4,090万 m^3 ⑥有効貯水容量1億2,720万 m^3 ⑦集水面積172 km^2 ⑧湛水面積5.1 km^2 <14年度事業内容>①本体コンクリート打設約5万3,000 m^3 (14年秋頃の打設工事完了)②各種ダム管理設備工事③主要地方道岩崎西目屋弘前線の付替道路工事等の継続(14年秋頃的全線開通)④ダム本体関連の調査や設計⑤猛禽類等の環境調査【計上予算額】130億3,200万円【総事業費】約1,620億円【施工】間組・西松建設特定JV【設計】アイ・エヌ・エー(堤体詳細設計)【施工地】中津軽郡西目屋村居森平(右岸)及び同村藤川地先【事業期間】1973(昭和48)～2016年度

東北整備局浅瀬石川ダム管理所 水質保全対策を継続

◎浅瀬石川ダム管理

浅瀬石川ダムは、洪水調節という治水、かんがい用水、都市用水の供給という利水面及び発電を担う多目的ダム。我が国初の多目的ダムとして、昭和20年に完成した沖浦ダムがあったが、ダムの容量が小さく、水需要に対する必要量を満たすには程遠いうえ、洪水調節能力面での機能拡大の要求も高まっていたことから、新たに上流に浅瀬石川ダムが建設された。

ダム管理業務は89年度からスタートしており、現在はダム管理のための定常業務としてダム放流設備・電気通信設備、観測所の維持点検業務、水文気象・水質調査観測、水辺の国勢調査、流木処理などを継続実施している。08年10月19日で管理20周年の節目を迎えた。

14年度もダム管理施設等の維持点検や、堤体および貯水池の観測・調査、施設の維持補修を主体に業務を行う計画で、引き続き堤体と貯水池の適切な管理に努めるほか、放流設備や電気通信設備、観測所、堤体観測設備などの維持点検や、水文気象観測、水質調査、自然環境調査などの観測業務を継続するなど、定常業務に取り組む予定。

また、12年夏に津軽広域水道企業団が供給



水質保全のため設置されたダム湖に設置された曝気装置(中央)

する水道水から異臭が発生した問題を受けて、水源地となるダム湖の水質保全対策事業も継続する。

異臭発生原因と考えられる藍藻類の増殖を抑制するため、浅層曝気施設を4基設置し、水温躍層を弱めることによって藍藻類の増殖を抑えるもので、浅層曝気装置は1基あたり毎分3,700m³の空気量で、湖底から浮かす係留方式。13年7月に運用を開始したところ、効果が確認されたため、今後は恒久的な対策について検討を続ける。

□【工事概要】＜14年度事業＞①維持点検＝ダム放流設備や電気通信設備、観測所、堤体観測設備等②観測業務＝水文気象観測、水質調査、自然環境調査③維持補修工事＝流木処理④水質保全対策【計上予算額】不明【総事業費】未定【設計】未定【施工地】黒石市板留地内ほか【事業期間】14年度

東北整備局盛岡営繕事務所 待たれる黒石税務署改築

●黒石税務署庁舎改築

12～13年度の2か年事業として建て替えに着手する計画だったが、12年度は予算計上が見送られ、その後も事業費配分がなされていない。当初計画では、環境に配慮したゼロエネルギー庁舎として12年度に設計委託し、完了を待って同年度中に着工、13年度の完成を目指す予定だった。

新庁舎の規模は、鉄筋コンクリート造3階建、延べ1,236m²で、新庁舎建設に際しては再

生可能エネルギーや新技術の積極導入、省エネルギーの徹底活用等によりゼロエネルギー化を目指したモデルとして建設したい考え。施工地は黒石市西ヶ丘66地内の現在地。

特に環境保全性では、太陽光発電による自然エネルギーの有効活用や、屋上緑化、外断熱、地中熱利用ヒートポンプ等の採用を予定しており、年間エネルギーの消費量を年間エネルギー生産量以下とする「ゼロエネルギー庁舎」のモデルとして実施する方針。

建設費は約6.3億円で、内訳は建築2.6億円、電気設備1.9億円、機械設備1.7億円、解体工事費0.3億円を見込んでいるほか、企画設計費として0.3億円を試算している。

64年に建設された現在の黒石税務署(鉄筋コンクリート造2階建、延べ709m²)は、耐震性能の不足が問題となっていることに加え、築後50年を経過し老朽化が著しいことや、業務の多様化および業務量の増大により庁舎の狭あい化が問題になっていた。また、書類等の一部を弘前市内の集中簿書庫に保管することを余儀なくされるなど、利便性の向上も懸案となっていた。

□【工事概要】鉄筋コンクリート造3階建、延べ1,236m²(ゼロエネルギー庁舎)【計上予算額】未計上【総事業費】約6.3億円【設計】委託時期未定【施工地】黒石市西ヶ丘66地内【事業期間】未定

東北整備局青森港湾事務所 沖館・油川防波堤の延伸

解説 14年度事業費は12億5,000万円で、沖館地区・油川地区防波堤整備事業の15年度完成に向けて進捗を図る。

このうち油川地区第一北防波堤は、青森港油川埠頭の沖合約1kmの地点に延長約800mにわたって築造を進めているもので、油川地区や沖館地区の静穏度を向上させることを目的に、ほぼ東西に伸びるよう新設を進めている。12年度末までに570mが完成済み。

また、沖館地区東防波堤は延長1,700mで、12年度末の進捗は1,540m。

●青森港整備

14年度事業費は12億5,000万円で、沖館地区・油川地区防波堤整備事業の15年度完成に向けて進捗を図るほか、本港地区新中央埠頭整備として岸壁(-10m)(改良)も計画している。今年度は、青森港本港地区岸壁(-10m)(改良)改良、青森港本港地区堤埠頭岸壁(-7.5m)(改良)試掘外などの工事発注を見込んでいる。

このうち油川地区第一北防波堤は、青森港油川埠頭の沖合約1kmの地点に延長約800mにわたって築造を進めているもので、油川地区や沖館地区の静穏度を向上させることを目的に、ほぼ東西に伸びるよう新設を進めている。12年度末までに570mが完成済み。また、沖館地区東防波堤は延長1,700mで、12年度末の進捗は1,540m。

青森港本港地区新中央埠頭は、青森ウォーターフロント開発計画の中間ゾーンに位置付けられており、中心市街地延伸の受け皿、防災拠点として早期完成が待たれていたが、03年8月に-10m岸壁が供用し、04年4月には北防波堤が完成。14年度は本港地区新中央埠頭整備として岸壁(-10m)(改良)を進める。

□【工事概要】<14年度事業内容>①油川地区第一北防波堤整備②沖館地区東防波堤整備③本港地区岸壁(-10m)(改良)【計上予算額】12億5,000万円【施工地】青森市沖館地区内及び同市油川地区【事業期間】14-15年度



青森港内を曳航される油川地区東防波堤本体ケーソン

東北整備局八戸港湾・空港整備事務所 外港地区防波堤を18年度完成

解説 14年度事業費は復興庁計上分37億1,000万円で、八戸港八太郎地区および外港地区

の防波堤整備事業を推進する。

外港地区中央防波堤(2,800m)および外港地区第二中央防波堤(1,670m)は、総事業費1,164億円を投入して、港内静穏度の向上や荒天時の避泊可能水域を確保するもので、18年度の完成を予定している。防波堤の完成により、安定的な海上輸送実現が図られ、臨海部企業における国際競争力の強化につながることから、事業の進捗が期待されている。

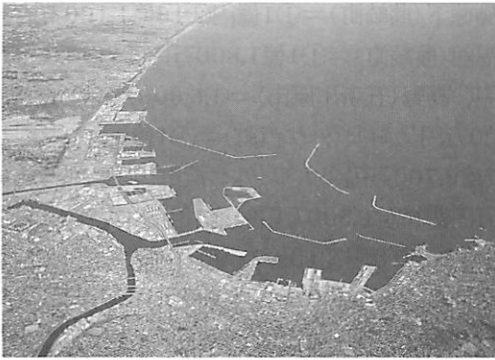
このほか、14年度は八太郎・河原木地区航路泊地整備も促進する。

●八戸港整備

14度事業費は復興庁計上分37億1,000万円で、八戸港八太郎地区および外港地区の防波堤整備事業を推進する。外港地区中央防波堤(2,800m)および外港地区第二中央防波堤(1,670m)は、総事業費1,164億円を投入して、港内静穏度の向上や荒天時の避泊可能水域を確保するもので、18年度の完成を予定している。防波堤の完成により、安定的な海上輸送実現が図られ、臨海部企業における国際競争力の強化につながることから、早期完成が期待されている。このほか、14年度は八太郎・河原木地区航路泊地整備も促進する。

主な14年度発注予定工事は、八戸港八太郎・河原木地区航路泊地(埋没)付帯施設外消波外、八戸港八太郎・河原木地区航路泊地(埋没)付帯施設外築造、八戸港八太郎・河原木地区航路泊地(埋没)付帯施設外本体、八戸港八太郎・河原木地区航路泊地(埋没)付帯施設本体(その2)、八戸港外港地区防波堤(第二中央)外消波外、八戸港外港地区防波堤(中央)築造、八戸港ケーソン仮置場整備、八戸港灯浮標整など。

東日本大震災により甚大な被害を受けた八戸港八太郎地区北防波堤(全長3,496m)は、「中央部」764m(60函)、「ハネ部」664m(42函)でケーソンの水没や倒壊などの被害を受け、早期復旧に向けて消波ブロックの移設・積み上げや被災ケーソンの撤去、新たなケーソン製作などが急ピッチで進められてきた。新たに中央部へ据え付けたケーソンは、既存のケーソンよりも大型



外港地区防波堤の延伸が図られる八戸港

となるため、41函を据え付けた。ハネ部についても12年10月から新たなケーソンの据付を行い、13年3月28日で据付が完了し、北防波堤が2年ぶりに1本につながった。

□【工事概要】外港地区中央防波堤(2,800m)、外港地区第二中央防波堤(1,670m)、八太郎・河原木地区航路泊地整備【計上予算額】

37億1,000万円【施工地】八戸市河原木地先ほか【事業期間】14—18年度(外港地区防波堤整備事業)

●むつ小川原港整備

むつ小川原開発計画の拠点港として1977年に重要港湾に指定され、90年度に1万5,000t岸壁が暫定5,000t(-7.5m)で供用したほか、さまざまな企業立地に対応できるよう5万t岸壁(-14m)の整備を進めてきた。しかし、開発計画区域に企業立地が思うように進まないことから公共事業の費用対効果などによる見直しが行われ、5万t岸壁は延長280mから延長100mへと縮小されることになり、これに伴い同岸壁は2,000t級へと規模を縮小することになった。鷹架地区-14m岸壁(1)は、暫定-5.5m規模で完成しており、13年度も予算配分見送られた。

東京航空局

青森空港通信設備設置など

●青森空港施設等改修

14年度の県内空港施設整備として、①青森空港VFR室外空気調和設備②青森仮設VOR/DME設置③青森空港対空通信設備設置その他—の各工事などのほか、青森空港ILS施設等除雪を発注する。

□【工事概要】①青森空港VFR室外空気調和設備=青森空港庁舎VFR室及び無線機器室の空気調和設備の更新②青森仮設VOR/DME設置=青森VOR/DME装置の機器更新工事に伴う代替施設として青森仮設VOR/DMEの設

置および付帯設備の設置③青森空港対空通信設備設置その他=青森A/Gの増波工事および青森RCM、青森FDP、青森CCPの老朽化に伴う機器更新及び付帯設備の設置工事④青森空港ILS施設等除雪=青森空港出張所の無線施設にかかわる除雪、圧雪作業(LOC空中線前方、GS反射版及び進入道路、VOR/DME進入道路、IM進入道路、SSR進入道路等)【計上予算額】不明【総事業費】不明【設計】不明【施工地】青森市大谷字小谷ほか地内【事業期間】14年度

東北農政局

平川二期に11億配分

解説 14年度当初予算に基づく県内関係の個所別予算額によると、個所数の内訳は直轄の農

業農村整備事業が3か所、林野公共事業が17か所、補助事業では①農業農村整備事業58か所